

# 登録有形文化財登録 中沢川砂防施設

山形県尾花沢市大字押切地内

- ① 中沢川東山堰堤（なかざわがわひがしやまえんてい）
- ② 中沢川崩上流堰堤（なかざわがわくずれじょうりゅうえんてい）
- ③ 中沢川崩下流堰堤（なかざわがわくずれかりゅうえんてい）
- ④ 中沢川河原沢堰堤（なかざわがわかわらさわえんてい）

平成 22 年 1 月 15 日に上記 4 施設が登録有形文化財（建造物）に登録されました。



登録有形文化財名板

（登録番号 第 06-0115～0018 号）

## 位置図



## 中沢川の概要

中沢川は、一級河川最上川水系丹生川の支流のひとつで、流域面積約 11.7km<sup>2</sup>、流路延長約 8.2km、平均溪床勾配約 1/10.6 の急流です。中沢川は途中で刈安川と合流した後、赤井川と合わさり、その後丹生川を経て最上川へと注ぎます。

## 中沢川の砂防事業の歴史

大正 2 年に中沢川を含む丹生川流域で発生した豪雨により、多数の山腹崩壊が生じ、沿川では甚大な洪水被害に見舞われました。この水害等を契機として、山形県における砂防事業が大正 5 年より開始されることになりました。

今回、登録有形文化財に登録された砂防施設は、山形県内初の県営事業により築かれた近代砂防施設です。

## 中沢川砂防施設の概要

登録有形文化財に登録された 4 基の砂防堰堤は、大正 5 年から大正 9 年にかけて築かれ、築造後 90 年以上経過していますが現在もその機能を発揮しております。

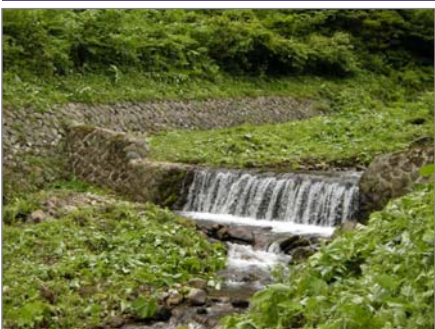
その構造は練積みによる石造りの堰堤で、空積みの石積護岸とともに下流域への土砂流出を防止するもので、全国的に初期の事例となっております。

### ① 中沢川東山堰堤（なかざわがわひがしやまえんてい）



中沢川の上流狭窄部に築かれた砂防堰堤です。堤長 12m、堤高 2.4m、練積による重力式堰堤で、湾曲して流れる川の土石流を右岸上流側の空積護岸とともに受けます。大正 2 年の水害後に建設された県内初の県営事業による近代砂防施設です。

### ② 中沢川崩上流堰堤（なかざわがわくずれじょうりゅうえんてい）



東山堰堤の 180m 下流に位置します。堤長 14m、堤高 1.9m、練積で築かれた重力式堰堤です。堤体は谷積で築き、水通しの両袖部には丸みを付けています。両岸の斜面法尻には、全長 212m の空積護岸を築いて流路を安定させています。山間部の穏やかな溪流景観をつくっています。

### ③ 中沢川崩下流堰堤（なかざわがわくずれかりゅうえんてい）



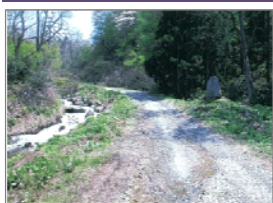
崩上流堰堤から直線状に延びる流路の 70m 下流に位置します。堤長 15m、堤高 3.4m の練積による重力式堰堤です。堤高の低い堰堤を連続的に築くことで、急峻な河床勾配を段階的に緩和して河床を安定させ、周囲の緑の回復に寄与している。

### ④ 中沢川河原沢堰堤（なかざわがわかかわらさわえんてい）



崩下流堰堤の 420m 下流に位置します。堤長 29m、堤高 1.7m の練積で築かれた重力式堰堤で、下流側法勾配は 3 分としています。溪流最下流に立地し、水通し幅は 18m と広くとっています。他の堰堤と同様に堤体法面を急勾配で築いた砂防堰堤としては、全国的に初期の事例です。

### 宮澤砂防記念碑



最下流部には当時の関係者の名を記した記念碑（大正 9 年建立）があり、中沢川が山形県砂防事業の始まりであったことがうかがえます。